2019年　10月8日発行
No.116

中検リアルタイム

～中央検査部便り～

パニック値の報告について

パニック値とは？

「生命が危ぶまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常値で、直ちに治療を開始すれば救命し得るが、その診断は臨床的な診察だけでは困難で、検査によってのみ可能である」(Lundberg GD, Med Lab Obs. 4, 47-52, 1972)とされています。

中央検査部では、これまで電話によるパニック値の報告を行ってきましたが、主治医へ直接連絡がとれない場合でも確実に伝達できるよう、8月より電子カルテへの記載を実施しています。これまでと同様、電話での連絡も行っていきますので皆様のご協力をお願いいたします。

文責　奥村

病理部より

検体受取について

病理検体の受取りは、提出者と病理部担当技師との**対面受取が必要**となります。
検体提出場所は、病理部検体受付にて行います。
対面受取の際の確認事項は、
①オーダー種別(組織診、細胞診、病理部外標本)②患者氏名③検体名④検体個数です。
検体の確認後、**検体提出者の方はサインまたは押印**をお願いします。

検体処理室での検体一時預かりについて

手術後、速やかに病理診断申込書と検体容器ラベルの貼付した検体を準備できない場合に限り、主治医もしくは依頼医が病理診断申込書を準備できるまでの間、病理部検体処理室にて一時的に検体を預かることが可能です。

《時間内》

病理部検体処理室内にある「検体一時預かり記録」に必要事項を記入し、患者IDと患者氏名の記載された汎用ラベルを検体容器に貼付し、指定のトレーにセットにして病理部技師に渡して下さい。

《時間外》

病理部検体処理室内にある「検体一時預かり記録」に必要事項を記入し、患者IDと患者氏名の記載された汎用ラベルを検体容器に貼付し、指定のトレーにセットにして検体保管庫1(受付前)に入れて下さい。

※病理診断申込書の準備が出来ましたら、速やかに病理部検体受付へ提出し病理部技師と**対面受付**をお願いいたします。

問い合わせ先(内線:7097)　文責:古田

輸血・細胞治療部より

2019年9月3日に米村輸血部副部長、認定輸血看護師、輸血部技師、医療の質・安全管理部のメンバーで各病棟、外来、手術室の輸血ラウンドを行いました。

輸血ラウンドは安全な輸血医療の実施のため、平成24年から年1回実施しており、今回は、輸血中に副作用を疑われた場合の対応について確認をしました。輸血副作用を疑った場合、ただちに輸血を中止しますが、その際注意していただきたいのは、副作用に対する処置・治療のために静脈ルートを確保しておくことが必要なため、慌てて留置針を抜いてしまわないことです。その後、患者の状態を速やかに主治医に報告し、必要な処置を行って下さい。

副作用の原因製剤は原因究明のため輸血管理室へ返却していただきますが、細菌感染が原因となる場合もあるため、輸血セットの先端は不潔にならないようにAプラグなどを付けてご返却下さい。今回のラウンドの結果、副作用を疑われた場合の対応は適切に行われていました。ご協力ありがとうございました。

不潔にならないようご注意下さい

文責：吉田

K-CHAP活動報告

9月1日（日）に、熊本県心血管エコー検査標準化プロジェクト（Ｋｕｍａｍｏｔｏ Cardiovascular echocardiography standardization project = K-CHAP）の一環として、心エコー・腹部エコーハンズオン in 天草を開催しました。

K-CHAPは、熊本大学病院中央検査部と循環器内科、熊本県臨床検査技師会及び県下の基幹病院が協力し合い、県全域の心血管エコー検査の質の向上を目指すプロジェクトです。

その活動の一つとして、熊本市内で開催される勉強会や講演会への参加が難しい地域における出張ハンズオン（実技講習）を定期的に行っています。今回は天草地域において、エコー技術の向上を目的に、心エコー・腹部エコーの講義・ハンズオンを行いました。当日は、医師・臨床検査技師・診療放射線技師など30名が参加し、K-CHAPの超音波専門医・超音波検査士の指導の下、最新のエコー機器を用いてエコー技術の習得に取り組みました。

また、熊本大学病院にも来年から導入予定である「経カテーテル僧帽弁クリップ術の機器の展示・説明が行われ、参加者から好評を得ました。今後は天草だけでなく、球磨・玉名・阿蘇など熊本県の様々な地域での出張ハンズオンを継続していく予定です。

文責　宇宿　芳之内

CL-SO-01-013 2019年10月7日広報委員会承認
副委員長：奥村美保　編集：吉田朝子